

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104280		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	和歌山市小瀬田85番地		
自己評価作成日	平成29年 5月5日	評価結果市町村受理日	平成29年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanistru&kjigvsvocd=3070104280-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成29年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人と家族を交えて要望を聞き、適切と思われるアドバイスを行い、少しでも快適な毎日が過ごせる様、支援している。常に入居者中心に何事も考え行動し、出来る限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日を過ごして頂くには健康管理が重要である。その為、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられるようにして医療連携を特に重視している。なお、受診する際の送迎等については、車イス移動車を導入しており、出来るだけ家族様に負担をかけない様に配慮している。基本的には、次の三つのスローガンを基に行動している。

- 1.常に入居者様を中心に如何にして安心した快適な毎日を過ごして頂くことが出来ているか。
- 2.入居者様の健康管理は重要で些細な事でも見逃さない様十分管理し、常にベストな体調を維持しているか。
- 3.家族様には安心してお預けしていただき、家族様の負担軽減につながり、お役に立つことが出来ているか。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者や家族の希望や要望、願いに真摯に耳を傾け、常に利用者本位を考えた実践を行っている事業所である。利用をされる方々だけでなく、地域住民との交流にも力を入れており、又、支援者である職員も落ち着いたケアが出来るように、研修や日々の生活への楽しみ支援等も行い、配慮をしている。入居者、家族、それを取り巻く人々、皆が落ち着いて安心できる生活を実現しようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、共有、実践するために各ホールに掲示して意識づけを図り、会議で職員間の情報を共有し考えや要望を出し合っている。天井は高く、中庭もあり、各居室には大きな窓から外を眺められる開放的な設計にしており、入居者一人ひとりがストレスをためこんでしまわない様に、自由でのびのびと暮らせるような支援に努めている。	毎月の会議や日常の場面においても常に「理念」を理解できるような声掛けや取り組みを行っており、自然な形で共有と実践が出来るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や自治会集会等に参加したり、ホームでの行事に参加して頂く事で地域の方々とのつながりを大切にしている。近隣農家の方々から野菜や果物を頂いたり、共に外出したり、地域の一員として交流を図っている。	地域の活動に参加するだけでなく、管理者や職員自らが地域住民との交流を積極的に行っている。その結果、季節の野菜や果物が次々と届けられたり、災害時は助け合おうと声を掛け合う関係が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催を通じ、地域の方々や地域の高齢者の方々との関わりを深め、またホームでの食事会や行事に参加して頂いている。地域での文化祭に作品を出品し、地域の方の作品を鑑賞させて頂き、交流を深めている。研修会等をする際には、公民館をお借りするなどの協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地区住民代表、家族代表、包括支援センター、民生委員、市役所支所長、自治会長の協力を得て、開催している。ホームでの活動の状況や入居者の状態、災害時の対応等、様々な支援について話し合っ協力をお願いしている。また、緊急時の連絡網など作ってくださっている。認知症についての勉強会だけでなく、体調管理、防火対策の勉強会にも参加して下さっており、都度貴重なご意見を頂いている。	委員だけでなく、家族等の協力も得て会議を開催している。特に自治会や地域住民との交流がある結果、会議が研修の場所になったり、災害予防の会になったり等、安心で多様な運営へ繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	和歌山市役所の安原支所とは、連携を密にさせていただいている。支所長、自らがボランティアとしてホームでの活動に参加して頂いたり、地域での行事等も声をかけて頂き、参加させていただく。連合自治会長の協力もあり、実績を把握して頂きご意見を頂く等協力関係を築いている。	支所との繋がりを日常的に行っており、所長自らがボランティアを買って出してくれる等、良好な関係づくりから日々への連携となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師を招き、またホーム内での勉強会にて法令を学ぶ機会を設けている。マニュアルの作成や職員会議の議題に取り上げる等、身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。また、職員全体が「ヒヤリ・ハット」事例検討や入居者のカンファレス等で職員個々が身体拘束について考えながら、チームとして取り組んでいる。入居者の状態を常に把握し、徘徊のある方には見守りを重視している。	研修会の開催を行うことはもとより、日々の実践の中でも「しない」ことを当たり前とするチームとなるよう取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修は勿論のこと、外部より専門家を招き、勉強会を開いている。自己啓発を促し、より良いケアを目指して職員が受講しやすいよう支援している。研修等に積極的に参加をすすめ、報告会(勉強会)で全職員が学び、意識の向上に努めている。また、日々の生活の中スタッフ間で言葉かけ、ケアの方法について話し合い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門家を招き、研修会に行ったり、権利擁護推進委員の職員との勉強会を開き、みんなで理解を深め、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように努めている。研修会にも参加するようにし、他職員と情報を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には入居後予測されるリスクや心身の低下、退去後にかかわる全ての事柄について、ご本人、ご家族様の不安や問題点をお尋ねし、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、ご理解を頂けるよう努めている。また、制度改正がある場合等は、再度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議や面会時など、ご家族とは常にご連絡を取れるようにし、話しやすい雰囲気作りを行っている。身近な職員が、ご家族とお話できるよう、面会時には居室にてお茶をお出しする際に、日常の様子をお話したり、意見などをお伺いしている。また、ご意見箱も設置しており厳しい内容も真摯に受け止め改善に努めている。	日々の生活の中から、利用者やご家族の小さな声を見逃さない体制作りを行っている。ご家族が会議や面会等で訪問された時等は、話しやすい空間作りを行い、色々な意見や声が表せるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案をしやすいように、食事会、懇親会などの気軽な場を設け、話しやすい雰囲気作りを努めている。職員とは意見や提案はメール等で積極的に取り入れ、リスク・リターンについて話し合っている。また、ご意見ノートを使用し、職員の提案や疑問についても全体で思案している。	常に職員のストレス等に配慮しており、対話には特に気を配っている。食事等を共にする機会を設け、自然に色々な会話ができるような雰囲気を作っている。信頼関係をもとに、日々の実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格取得者など様々な実績や努力に対し特別賞与を提供している。また、受講や資格取得を目指したい希望があれば、勤務の調整や職員個々に合った形作りを努めている。職員と責任者はコミュニケーションを図り、何でも話せる関係であり責任者は管理者に皆の思いを伝えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域資源の利用により地域文化祭の参加団体、同業者との交流を図っており、相互訪問や交流会での交通費や諸費用にも配慮している。また研修に参加する事で同業者と交流する機会に意見交換を行い日頃の業務の参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域資源の利用により地域文化祭の参加団体、同業者との交流を図っており、相互訪問や交流会での交通費や諸費用にも配慮している。また研修に参加する事で同業者と交流する機会に意見交換を行い日頃の業務の参考にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、各関係事業者や主治医の先生からの情報に基づき、アセスメントを行い不安なこと、ご要望に十分に耳を傾けている。信頼関係を構築する上で自施設での食事会、イベントなどに参加して頂き、些細な事、疑問点をお話できるような努めている。また、入居前にも訪問調査を行い、情報収集し、本人様や家族様の要望に対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人様と一緒に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がるよう取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを大切に、ご意見や要望を話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様が「その時で」、まず求め、要する支援について十分、話し合える機会を設け、サービス開始後からも、ご本人に必要と考えられるサービス利用についてその都度々々カンファレスを開き、職員間で話し合い、ご本人と家族様の意向をしっかりと把握した上で対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を中心に考え、行動し、日々の生活からこぼれ出るご本人の思いを、表情や態度からくみ取れる様、職員間で入居者様ひとり1人の状態について話し合っている。介護や援助をするだけでなく、ご本人の能力に応じた家庭でしていただくであろう家事等に参加し頂くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ふるさと便りを通じて、月に1度以上は利用者様の状態や近況を写真と共に報告している。その為、面会時にもスムーズに近況報告ができています。ご家族の相談事についても耳を傾けさせて頂き絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	深夜を除いて、面会時間は自由になっており、気兼ねなく来所して頂けるように努めている。ご本人の外出や、外泊への要望にも配慮している。ご家族の訪問は多く、それに伴い、外出に行かれる回数も多く、車イス車での送迎なども支援している。	面会時間にほぼ制限をすることなく、自由に、ご家族にとってもご自身の居場所となるように努めている。来所だけでなく、利用者が出かけたいような支援にも力を入れており、外出のための車の貸し出しを行ったりし、そのことで、今までの関係を絶たない努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者ひとり1人での出来ることや、分かることを職員も共有し、ホールでの座る位置等を考え利用者同士で会話ができる様に配慮している。また互いに苦手な部分を協力して、支え合えるような関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入居中の信頼関係は継続できるよう適時、連絡を取ったり、転所先のお見舞いに行ったりしている。退所後であっても来所は自由であり、各相談にも応じる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動、行動、表情を観察し、入居者ひとり1人の思いや希望を汲み取り、職員個々がご家族から得た情報や、生活歴を把握し、職員が情報交換を行いながら、安心した日常生活になるよう支援を行っている。ご家族からの情報や日々の生活の中での要望などを把握できるよう努めている。	日々の思いを見逃さないように、記録等には特に力を入れている。項目別に細かく記載されており、見やすい、わかりやすい工夫がされている。職員にとっては、多量の記録となっても、それが、利用者の思いの把握に繋がることをしっかり理解しており、常に取り組む姿勢が見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とのコミュニケーションを日頃から密に図ることで、過去の生活歴、また新たな情報の収集が出来ることで、より良い支援過程の展開につながり、従来の生活に近づけるような個別援助に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態を常に把握し、日々のバイタルチェックを行うとともに、心身に対する支援については主治医の指示、指導の下で努めている。ひとり一人が個々のペースで生活出来る様な環境作りに努めご本人の思いを尊重してプライバシー保護にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひとり一人のケアの在り方をカンファレンスで計画の見直しを行い、より良いサービスの提供、支援過程が行えるようケアプランを作成している。アセスメントを含め、各関連職種と連携し、介護計画を作成し介護過程の展開を行っている。また、ICF、ヒヤリハット事例検討会なども行い、その場の意見等を検討し、現状にあったケアができるようにしている。	モニタリング等、職員全員が一人ひとりの利用者の細部にまで目を行き届かせ、把握し明らかにしている。それをもとに、より本人本位の介護計画となるように、取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送り、日常生活状況を把握し、職員間で情報の共有を行いながら記録を記入している。ひとり一人のその時々での表情や言葉、会話なども詳しく記入し、共有した上で話し合いや意見を出し合い、実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複数の医療機関と連携、連絡を取り定期的な通院や往診を行っており、主治医の指示や指導の下、健康管理に十分な配慮に努めている。また日常からのご本人からの要望、ご家族の希望などにも傾聴し、運営推進会議内で、包括支援センターとの相談を行うなど、社会資源も活用しながら多角的な視点で、柔軟なサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	複数の医療機関と連携、連絡を取り定期的な通院や往診を行っており、主治医の指示や指導の下、健康管理に十分な配慮に努めている。また日常からのご本人からの要望、ご家族の希望などにも傾聴し、運営推進会議内で、包括支援センターとの相談を行うなど、社会資源も活用しながら多角的な視点で、柔軟なサービスの提供に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での定期的な往診により体調管理、感染症予防等に努めている。病院への通院はご本人、ご家族、職員が、必要性に応じ、各々立ち合いの下行き、ご本人の現状にあった医療の提供に努めている。緊急時にはかかりつけ医に連絡させて頂き、昼夜で迅速な対応に協力して頂き、家族様の連絡、取り次ぎを行っている。	協力医療機関が、常に話しやすく相談できるものとなっている。そこから、利用者一人ひとりがいかに安心した医療を受けられるかを考え、実際、医療を受けて、安定した生活を送れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の協力により、緊急時含む適時に相談や指導など対応して頂いている。また、職員からの要望にて看護師が講師となって頂いての勉強会も開いて頂いている。往診時にも同行され、生活状況、体調変化等、相談に応じて頂きいつでも連絡が取れる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な往診を通じて、入居者の状態については、医師、看護師と共に把握して頂いているので、入院時には適切な治療が行われるため比較的、早期に退院に出来ることが多く、今後の方向性についてももしっかり話し合っている。また、退院後は、臨時往診も行われ、十分な対応をして頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の思いや望みを尊重しながら、連携医療機関の主治医からのお話も含み、入居時より想定し得る体調変化等については、ご家族、ご本人とは話し合いの場を設け、十分な御理解を頂ける様にしている。また老人保健施設、関係職種との連携もあり、重度化に関しての対応も出来る様にしている。体調変化等の都度、ご家族に連絡、話し合いをしている。	重度化、終末期といった限定的な考え方ではなく、いかにその人の生活を全うできるかと言う考え方で支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時についての対応や手順等は、日頃から話し合い、慌てる事なく迅速に対応できるよう取り組んでいる。協力医療機関や訪問看護師への緊急連絡先を掲示板に貼付しており、急変時には主治医や看護師に指示を仰ぎ、冷静に対応出来る様に努めている。また、急変時の経過については詳細に個人記録に記載するようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、定期的に避難方法や消火器の位置、避難ルートを明記した図面を掲示板に貼付し、迅速に対応できるよう努めている。また、スプリンクラーの設置、管理も行っており、火災受信機ならびに通報装置や連絡方法等も、消防署の立会いの下、消火器の使い方、避難訓練等も行っている。運営推進会議においても地域の方々と連携し、災害時における体制、協力も得ている。その他、避難袋や、非常食等も準備、管理している。渡り廊下も整備し、避難経路の改善も図っている。	災害については、研修や避難、訓練、非常食等々全般において、事業所内だけでなく、地域の方々と共に日常から連携を取り、体制作りを行っており、利用者にとっても地域の方にとっても安全で安心な事業となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の言葉遣いや会話の中での言葉に気を付け、尊厳を損なわれない対応を心掛け、そのための勉強会や専門家を招く等もしている。毎日の全体会議においても日々の接し方、関わり方について見直して意見交換をし、言葉の重要性の周知やカンファレンスでの入居者個々に応じた関わり方を検討し実践につながるよう努めている。また、記録等の個人情報の取り扱いの徹底にも努めている。	日常的な暮らしの中で、一人ひとりを大切にすることを基本に、会議だけでなく、その時、その都度において職員同士で確認し合い環境作りまでも考え、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者ごとに、ご本人に理解して頂きやすい言葉、また筆談や写真等、様々なコミュニケーションの方法を用いることで、ご本人やご家族の思いの反映なども配慮している。ご本人の思いや希望を普段の会話から引き出し自分で決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者ひとり1人の生活リズムを把握し、個々のペースを尊重し、思いのまま過ごしていける様配慮している。その人の生活に添えるよう努め、また、日々の生活の中らご本人の要望を傾聴し、その日の体調や気持ちに配慮しながら、可能な限り要望に添えるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師と連携し、入居者ひとり1人の嗜好、髪型やカラーに取り組んでいる。衣類などは、ご本人が昔から馴染みのある衣類を入居時にご用意して頂き、着用して頂くなど、家庭での生活を継続できるような支援に取り組み、また、敬老の日や父の日・母の日といった行事の際には下着や靴下、ストールなど個々の希望に応じた物をプレゼントさせて頂き、その中からその日の気分にあったものを選んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から利用者が希望するメニューを献立表に書き出している。個々に合った形態や温度で提供し、旬の食材を使いながら各メニューに合わせた食器を使用する事によって目からの楽しめるよう配慮している。行事や誕生日会の際には、お寿司やオードブル等、手作りではなかなか作れないものも提供し、外食会でも積極的に取り組んでいる。準備に関しては、衛生面を考慮し、職員が行っているが下膳や片付け等、リスクが少ない部分で可能な限り、入居者様と共に行っている。	「食が一番の楽しみ」との考えを基本に、行事食だけでなく、常に「食べたい物は」という問いかけを行い、一人ひとりのご本人が望む『物』が「食べられる」日常となるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の摂取量を作成して、入居者ひとり1人の状態を把握できる様に取り組んでおり、各人が持ちやすいカップや湯呑みを使用している。また、水分の取りにくい人には主治医と相談しながら、食事形態の工夫、トロミ材の使用やスポーツゼリーの提供も行っている。夜間の水分を飲用したいという要望などにも積極的に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人の残存機能を職員間で情報共有し、個々に合った食後の歯磨き、義歯の洗浄、またマウスウォッシュを購入し、うがいの支援にも力を入れている。うがいが難しく飲み込んでしまう方には飲料水でうがいして頂いている。また、それぞれが使いやすい好みの形のカップを使用して頂き、一日の中で口腔内や義歯が清潔で、心地よく過ごして頂ける様努めている。食事の際にも気持ちよく食事して頂けるよう支援し、夜間も義歯を使用されている方は義歯洗浄剤を用意し、使用するなど、昼夜で清潔を保持できる様努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を活用し、排泄リズムを把握し、職員間で情報共有しながら、残存機能を活かした排泄が行えるよう支援し、自尊心に配慮するよう努めている。また、ひとり1人の習慣などにも配慮しながら、トレーニングパンツを使用し、排泄の自立を支援している。	一人ひとりの個別性を重視し、みんな同じとしないケアを行っている。排泄は、各個人にとって、大切な営みであるとの考え方で実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを記録し職員全体で把握している。一日の水分量や入居者ひとり1人の嗜好に配慮しながら食事内容にも工夫している。またテレビのラジオ体操にも積極的に参加し、運動を、便秘の原因解消に努めている。主治医と相談を行いながら、その指導の下、内服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる準備、環境を整えており入居者ひとり1人のその日の状況や希望に沿って入浴支援を実施している。また、入浴が難しい場合においても、足湯や清拭浴などを行っている。入浴中に職員と談笑したり、入浴剤を活用し、入浴に対する興味を深められるよう創意工夫に努めて、清潔の保持を支援している。入浴後には乾燥など予防するために連携医療機関から保湿剤の処方やご本人、ご家族が用意される保湿剤等も活用している。	夜間入浴までには至っていないが、日中であれば毎日でも「入浴できる」体制を整えている。そのことで、「今は入らない」と言う利用者の方にも焦らず、その人らしい生活を守ることが出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全個室となっているため、日々ひとりひとりの生活を捉え、体調や希望に応じ、ご自身の居室で自由に休息して頂ける様な支援に取り組んでいる。また、休息して頂く場合には、居室内の空調、家具や寝具といった環境面にもご本人やご家族の要望、以前から使用していた馴染みのある物を使用している。夜間においても十分な睡眠をとって頂ける様に、日中に適度な運動を促したり、環境整備を行うとともに、入眠、安眠が難しい場合には、職員間で情報交換を行い、主治医とも相談を行い快適な睡眠ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ひとり一人の薬については薬品名、容量、効能、副作用を明記した資料を以前から作成しており、職員は常に閲覧し、入居者ひとり一人の処方されている薬を把握できる環境を整えている。職員一人ひとりが各入居者の薬の種類や効能を知る事で、誤薬を防ぐようにしている。また、服薬の際には、きちんと薬が飲みこまれたか確認し、服薬管理簿に記録する事でミスのない服薬に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を把握し、その方らしく過ごせる役割を持てる場を作り出せるよう努めている。ご本人の意思を確認し、無理のない範囲で家事の手伝い、月毎の演奏会、お散歩や絵合わせ等、活気ある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの畑には梅、桜が植えられており、室内から花見ができる環境を作っている。また、ご本人の要望をご家族に伝え、外出して頂ける様配慮し、職員と入居者が近隣のスーパーに買い出しに行くなど外出支援に取り組んでいる。個々の身体状況や希望に合わせ、時間や距離、移動手段を考慮しながら、ホーム全体と地域住民の方で桜の花見会を毎年欠かさず行っており、恒例行事となっている。	外出については、一人ひとりの希望や状態、状況に合わせて、長距離、短距離、場所、時間等々を考慮して、ホームとしての出来る支援を行っている。日常出かけられない方については、地域の方にも協力を得ながら、行事としての外出や日常の散歩、買い物といったものにも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々の状態に合わせて、ご家族と相談の上、管理が可能な方は自己管理している。外出等で、支払いが可能な方には欲しいもの、必要なものを職員と一緒に見ながら購入して頂ける様サポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話や携帯電話も含めて、特に規制はなく、ご本人の要望に合わせて、その都度電話の使用を支援している。手紙のやりとりをされる方には、切手やはがきの購入、投函などを職員が代行で行っており、家族や知人とのかかわりを大切にもらえるように支援している。年賀状についても、レクリエーションの一環として皆様で手作りし、ご家族の下に届くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節ごとの観葉植物や生花を飾ると共に、季節に合わせた小物などを飾りつけし、室内でも季節感を感じられるように心掛けています。また天井が高く、窓も多い設計になっているため、太陽光が入りやすく、明るく開放的な環境となっている。利用者と一緒に水やりする事で、より季節を感じて頂けるよう努めている。	広い空間ではあるが、花や植物、季節に合わせた人形を置いたりすることや飾り等をしており、ソファやテレビの置く位置、使い方も配慮が見られる。みんなと過ごす、一人でも過ごす、数人で過ごすといった多様な使い方が出来るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、テラスや玄関ポーチ、日当たりの良い場所にベンチやイスを配置し、ひとり1人がその時々でくつろげるように工夫している。またホール内のテーブル席は自由に使用でき、共有テレビの前にソファを設けており、ひとりでの時間や複数での時間を過ごしていただけるような空間作りを行っている。また、必要に応じて、配置の変更も行い、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の生活歴により、ご本人にとって馴染みのある家具や寝具、装飾品を持ってきていただき、居心地の良い居室空間となるように支援している。また全室に設置しているコルクボードに大切にされている写真や好きなポスターを貼り、入居者個々の嗜好を取り入れてその人らしさのある居室となるようにサポートしている。利用者様の状況により、ベッドや家具の位置を変え、気分転換できるよう努めている。	居室には、それぞれのその人らしい生活道具が持ち込まれ、季節や日によって変化をつけたりもしている。本人の思いが伝わる各居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には手すりを取り付けると共に、なるべく不要なものを置かないようにして、安全面を考慮しながら動線に注意して家具を配置している。全室には手すり付きトイレも設置されており、日々の生活を安心して過ごして頂けるような環境整備になっている。また各居室の入り口には表札を取り付けて自分の居室がわかりやすいようにし、安全かつ安心して生活できるように努めている。		